

内閣情報部一二・二九

情報第一號

貴陽支那語放送 (二十三日) (關東遞信局總取)

時局講座 「敵ノ政略及ビ戰略ノ失敗ニ就テ」

一、暴日ノ連戰速決政策ハ失敗シ反第三者干涉モ失敗ニ歸シタ今眼前ニ現ハレタ事實ニ就キ各
位ニ闡明シタイ

政略ヲ簡單ニ云ヘバ外交デアル敵ハ三國干涉ニヨリ遼東半島ヲ返還シ華府會議ニヨリ青島
ヲ返還シタ九、一八事變以後國聯派遣ノリットン報告書ニヨリ不戰條約破壞者トナリ暴日
ハ聯盟ヨリ脫退シテ特殊ナル地位ニ居ツテ獨立自主外交權暴ナル外交手段ヲ續ケタ、反第
三者ヲスローガントシ七、七及八、一三事變ヲ惹起シタ之ハ近衛ト廣田トノ最モ特作シタ
政略デアツタ

暴日ハ中國ノ門戸ヲ閉鎖シ東亞ニ獨斷ヲ稱ヘントスルモコノ門戸閉鎖ハ即チ第三國ノ排撃
トナル、戰區ニハ又維持會トカ云フモノヲ組織シ驢馬トモ馬トモ非ズ日本強盜ガ第三國欺
騙手段デアアル

敵ガ現在行ヒツツアル政策ハ田中義一ノ征服中國策ノ踏襲デアアル
工業方面ヲ檢討スルニ工業方面ノ結構ハ日本商工省竹内氏ノ調査デハゴム、自轉車等中小

工業ハ小規模工場ヨリ生産シ鋼鐵ハ戰時下デハ軍需工業ニ轉ジ生産ハ自然減少トナラウ
日本軍需工業ノ原料ハ極度ノ原料缺乏ヲ感ジ殊ニ重工業ハ一層甚シイ石油モ不足デ萬一日
本ノ海口ガ列強ニ封鎖サレタ場合ハ日本ノ重工業ノ大部分ハ（飛行機、タンクノ如キモノ）
停頓シ工場モ無用ノモノトナラウ、之ハ日本ノ弱點デアアル

日本人有澤光吉氏ガ一九三六年八月號ノ中央公論ニテ發表シタ日本原料缺乏品ハ二十二種
アリコレヨリ見テモ原料ノ缺乏セル程度ガ窺ハレル

日本ガ多種土重工業原料ヲ外國ニ仰グ以上若シモ對日封鎖實行スレバ必ず效力ヲ發生スル
モノデアアル

日本ノ財政ガ如何程支持サレルカト云ヘバ石油、鐵等ハ一ヶ年農産物ハ第二年目デ無クナ
ルモノデアアル

現在日本ハ收入税、所得税、酒税、消費税等種々ノ税率ヲ加重シテイル現状ニシテ更ニ加
重スルコトハ容易デハナイ、強イテ増加スレバ生産ニ大打撃ガアラウ

大衆ノ生産ニモ大影響ヲ及ボスデアラウ、將來物價ガ暴騰シ連日苦シミヲ叫ブノハ貧民バ
カシデアアル

増税ハ重大ナル社會問題デアアル、公債ハ又飽和状態トナツタ若シ軍ノ方デ増發スレバ日銀
ガ接授スルコトトナル、日銀ガ紙幣ヲ膨脹サスト紙幣ノ范濫ハ對外爲替ノ暴落ヲ導ク日本

ノ財政ハ軍閥ノ強制ニテ遂ニ財政的破綻トナルデアラウ

日本ノ戰時財政ハ前述ノ如シデアアルガ、國民經濟ニ就テ云ヘバ日本ハ大地主々養テ土地ノ
百分ノ四六ハ地主ニアリ残りハ小作者ノ手ニアル

戰時壯手徵發テ農村生産力ハ減少トナリ日本ハ年ニ一千万屯ノ米ヲ使用シテイルガ其ノ内
二百萬屯ハ外國ニ仰イデイル、戰時ニ於テハ其ノ率ガ尙ホ増加スルコトトナツタガ日本ハ
極度ノ糧食問題ガ發生スルデアラウ

時局構座 「日本經濟ノ現状」

一、世界大戦ノ時ドイツハ軍事上ニ強勢力ヲ保有シテイタガ最後ニ失敗シタ原因ハ經濟的ノ失
敗デアツタ、現在ノ日本ノ經濟界ヲ見レバ研究ニ値スルモノガアル

日本財政ニ就イテ簡單ニ云ヘバ蘆溝橋事變以來日本ガ軍事ニ消費シタ金額ハ四十億デアル
一九三二年—一九三七年迄ノ軍事費ハ七億四千三百萬圓デアアルノヨリ見ルト全國々民ノ負
擔ガ一擧ニシテ四十億ニ増加シタ譯デアアル

日本政府ハ如何ニシテコノ龐大ナル軍費策スルカト云ヘバ増税及ビ公債ノ一途アルノミ
増税ハ國民ノ負擔能力ニ限度ガアル公債ハ國民ノ消化能力ニ注意ヲ要スルモノナリ、日本
主力財源タル増税ハ一九三七年以來ノ増税ヨリ國民負擔力ハ可能度數ノ極上ニ達シタノミ

ナラズ日本ノ租税ハ時代ノ需要ニ應ズルモノデハ決シテナイ
中國ノ抗戰ハ主權維持ト行政ノ完整ニアリ又ハ世界和平ノタメナリ中國ノ暴日ヘノ對策ハ
自力抗戰ニアルノミ

戰爭以來中國ハ全ク暴日ノ連戰速決ノ迷夢ヲ粉碎シタ、日本ノ反第三國干涉ハ即チ中國ヲ
閉鎖シテ獨霸中國ノ野心ヲ充タソウトシテイル

暴日ノ最近ノ外交文書ニモ明カニ第三國ノ權益ヲ無視シ第三國ヲ中國ヨリ閉出ソウトシ外
交當局ノ責任者モ公然ト談話式ニテ發表シタ

暴日ガ十月六日對アメリカノ回答モ九國條約ハ過去時代ノ遺物ダト狂吠シタ程デアル、又
ハ東亞ハ東亞人ノ東亞ナリ、新政權ヲ維持シ極東新秩序建設ニ中國ノ新政權ト合作スル等
之ハ暴日ノ政策ト見テ良イ

以上ノ數點ヨリ見テモ暴日ハ中國ヲ獨霸セントスルハ毫モ疑義ナイ英、米、ソ聯極東防務
加強ニ依リ日本外交ハ遂ニ失敗シ將來出路ガナクナルデアラウ

内閣情報部二三・二二・二九

情報部二號

一、重慶支那語放送（蘇州總督府父通同通信部編取）

十二月二十四日

一、香港二十一日電

上海消息

南京から来た人の語る所によれば最近敵方人民の南京に集まる者が甚だ多く中國人家屋の
多くは沒收されて敵方人民の居住に供せられてゐる。

江南鐵路は仍然無期に止じてゐるが毎日傷兵が多量列車で下湖に運ばれ如何に敵軍が前線に
於て莫大な死亡者を出してゐるかを物語つて居る。下湖の海軍體育場は既に敵軍火葬場に變
り毎日骨箱に詰められる者は無數である

其の火葬に附されるものは大部分が已に死んだ將兵ではあるが然し病床に呻吟してゐる傷兵
の焼かれた者も亦少くない。之は蓋し敵方が傷兵醫院の廢棄供給の困難を感じて居るのと傷
兵の癒えて歸國した際同國國民（日本國民）に良くない印象を與へるのを嫌がる爲め殘酷にも
死に至らしめたものである。京城（南京城）に居る四圍郊外の夜遊隊の實力は充實してゐ
る。